

加盟のごあんない

ス	青
ス	少
メ	年
	赤
	十
	字
	ノ



いまの教育で大事なことが、ここにあります。

Junior Red Cross

# 生きる力 × J R C

## 「生きる力」

文部科学省の新学習指導要領

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てる教育方針「生きる力」。その中で次の充実化がうたわれます。

### ■体験学習の充実

豊かな体験活動のため、他者や社会、自然や環境の中での直接体験のきっかけづくりが必要です。たとえば、学校行事(特別活動)において…

- ・自然の中での集団宿泊活動を推進
- ・職場体験活動を推進

### ■道徳教育の充実

家庭や地域社会との共通理解・相互連携などの改善が必要です。たとえば、

- ・自立心や自律性、自他の生命を尊重する心を育てる。(小学校)
- ・自他の生命の尊重、法やさまりの意義の理解、社会の形成への主体的な参画の学び。(中学校) (参照:文部科学省ホームページ「新学習指導要領・生きる力パンフレット」)



# ＝ 思 い や り と 行 動 力

## 「気づき、考え、実行する」

青少年赤十字態度目標

青少年赤十字(Junior Red Cross, JRC)が推進する、子どもたちが自主的で自立した考え方を育むための態度、「気づき、考え、実行する」は、その活動において「生きる力」と通じるところが多くあります。

JRCメンバーは、人間のいのちと尊厳を守る大切さを知り、その方法を学び、行動できるようになることを目標にして、全国の小中高校、幼稚園、保育所、特別支援学校の約13,000校で、約289万人(平成23年3月末現在)が活動しています。



# JRCの活動は、 子どもたちの可能性を ぐんと広がります。



JRC(Junior Red Cross) では、さまざまなプログラムが用意され、子どもたちの考え方や行動力、社会性を広がります。

## ～JRCの3つの柱～

いのちと健康を大切にできる力を養う

社会的に弱い立場にある人たちの手助けができる力を養う

世界が抱える問題に関心をもつ力を養う

赤十字はJRC活動をさまざまな形でサポートします。

- ✔ JRC活動のための豊富な資料や教材が活用できます。
- ✔ 赤十字職員やボランティア、赤十字救急法指導員など赤十字の人材を講師として派遣し、講習などをサポートします。
- ✔ 世界、国内の赤十字のネットワークを通じて、他のJRCメンバーと交流することができます。
- ✔ 子どもたち対象の宿泊型研修“リーダーシップ・トレーニング・センター”や、指導者(教員)対象の研修会などの研修プログラムがあります。

※各地域によって提供できるサポートが異なりますので、詳しくはお近くの赤十字都道府県支部にお問い合わせください。

# 健康・安全

基礎的な応急手当の修得、災害に対する備えなど、健康・安全のための知識や技術を学びます。



けがの手当や心肺蘇生などを学びます。



炊き出し訓練を通じて災害に対する備えを学びます。

「着衣泳教室」で、水の事故から身を守る方法を学びます。



# ボランティア活動



高齢者施設訪問や地域の清掃、募金活動などを通じて、学校外の人たちと交わりながらボランティア活動を実施します。



体験を通して、車いすの扱い方や高齢者への理解を深めます。



# 国際理解



赤十字のネットワークを通じて、世界が抱える諸問題を学んだり、海外の仲間たちとの交流を通じて、国際理解を深めます。



地雷模型に触れながら、地雷が使われる状況や被害について学びます。



海外の姉妹赤十字社のネットワークを通じて支援・交流事業を行ないます。

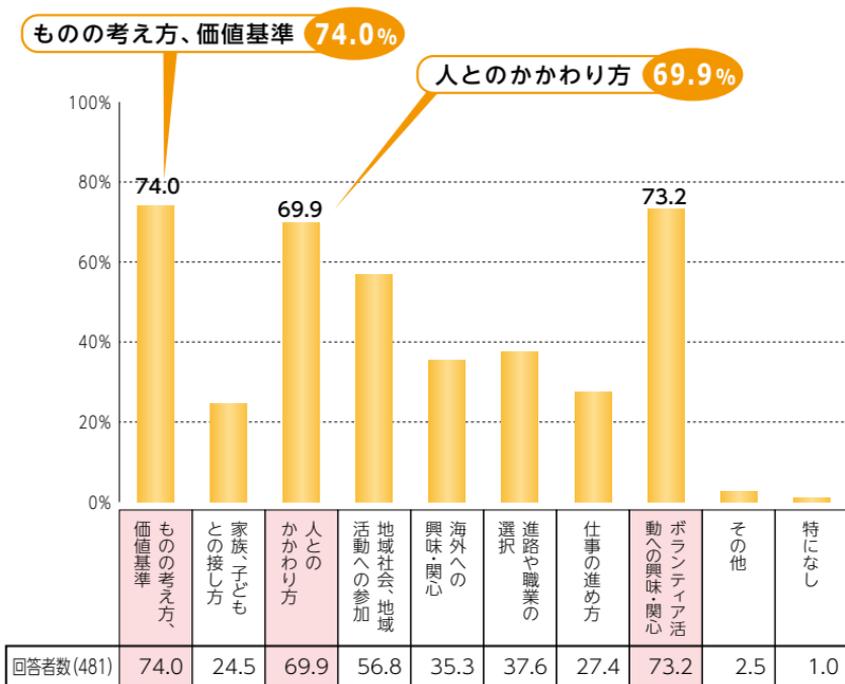
青少年赤十字メンバーが集めた活動資金「1円玉募金」を活用して、バングラデシュ、モンゴル、ネパールの3カ国の子どもたちに教育支援を行います。現地メンバーとお互いの文化を紹介しあうトピックアルバム(下の写真中央)の交換や相互訪問も行います。



# JRCを始めて、 人と関わることが楽しくなりました。



あなたはJRCの活動経験から  
どのような影響を受けましたか？

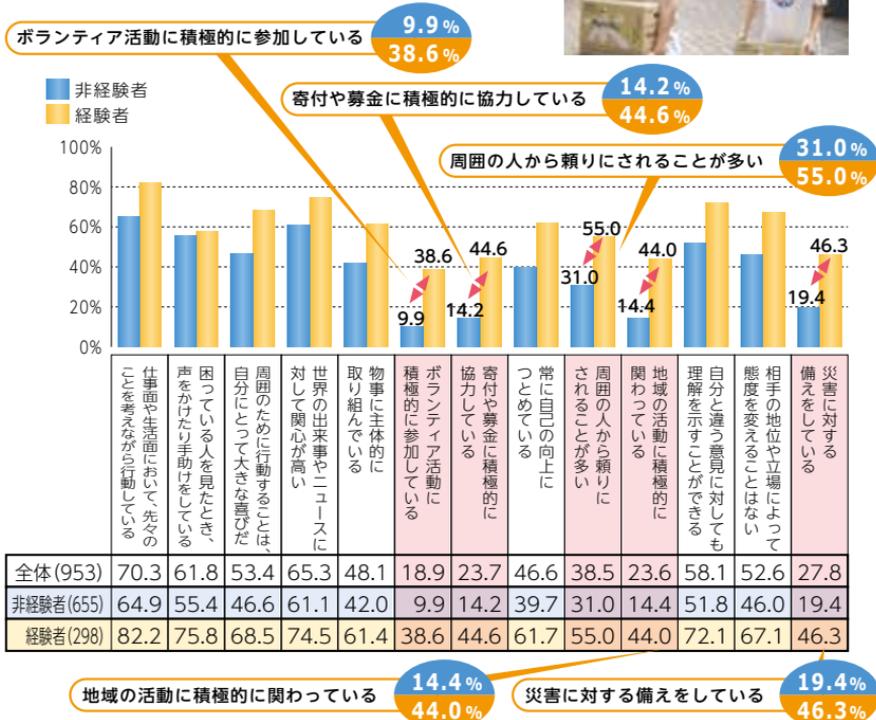


ボランティア活動への興味・関心 **73.2%**

JRCのプログラムは、普段ではなかなか経験できないことが多くあります。日本赤十字社が実施した「JRC経験者追跡調査」では、こうした経験がコミュニケーション力や自立心などの面で、人間形成に大きく寄与していることがわかりました。



JRC経験者と非経験者の意識について



■JRC経験者は、非経験者よりも意識が高い。

「仕事面や生活面において、先々のことを考えながら行動している」「困っている人を見たとき、声をかけたり手助けをしている」「世界の出来事やニュースに対して関心が高い」など、JRC経験者の方が選択率が高く、周囲や社会に目を向ける傾向が強くなっています。

# 体験から学ぶことは、 子どもたちを大きく飛躍させます。

J R C を経験した子どもたちの声

## 世界が広がりました。



大人(大学生・社会人ボランティアや日本赤十字社の職員)と関わることで、社会とのつながりを意識するようになりました。

## 自分に自信がもてました。

救急法の講習を受けて、自分でも人を助けることができそうだと思えました。



## 気づき、考え、行動できるようになりました。



青少年赤十字活動の中でやりたいことを見つけ、企画し、実行することを学びました。顧問の先生のサポートを受けながら自由に活動ができました。トレセン(リーダーシップ・トレーニング・センター)からも大きく影響を受けました。

## JRCのメリット

### ■JRCの活動に参加してよかったことは「人の役に立てた」こと。

「人の役に立てた」「活動してお礼を言われた」など、若い世代において貴重な経験となっています。

「救急法を学ぶことができた／救急法が役に立った」や「活動が職業選択につながった」など、より具体的な事柄が挙げられました。

### ■JRC経験者のうち、8割の人がJRC活動を有益と考えています。

「いろいろな人と交流できた」「人のつながりを持つことは大事」「困っている人を見たら、声をかけたり手伝いをする」「世界の出来事やニュースに関心を持つようになった」などが、子どもたちから挙げられています。

またJRCを経験した社会人からは、「相手の痛みを知り、いたわる気持ち」「自分で考え自分で行動をおこす力」「何かにぶち当たったときの問題解決能力」などが、JRCで学んだこととして挙げられています。

日本赤十字社「青少年赤十字経験者追跡調査(2011年4月)※」より抜粋

※JRC経験者の意識調査をインターネットや郵送アンケートで実施



学	校	教	育	と						
		青	少	年	赤	十	字	の	関	係

日本赤十字社では、JRC活動のための資料提供、赤十字の国内・世界のネットワークの活用、学校間連携の支援、加盟校の教員・生徒向けの研修などを行っていますが、指示や通達によって学校内の組織を拘束することは一切ありません。

JRCが他の青少年団体と異なる点は、その組織と活動が学校長や園長の理解のもと、教員や保育士を指導者として学校や幼稚園・保育所の中で展開されていることです。



# 何を実践するかは 学校や園の自由です。

## 学校教育と青少年赤十字の関係について

( 昭和41年12月27日 41教指導管第413号  
文部省初等中等教育局長あて 東京都教育長照会 )

このことについて、下記のとおり疑義がありますので、ご教示をおねがいします。

### 記

- (1) 公立の義務教育諸学校が児童生徒を青少年赤十字へ加盟させることができるか。
- (2) 公立の義務教育諸学校が学校教育の中で青少年赤十字が提供する教材を利用できるか。

( 昭和42年1月12日 委初第7の3号  
東京都教育委員会教育長あて 文部省初等中等教育局長回答 )

昭和41年12月27日付41教指管発第413号で照会のあった標記のことについて、下記のとおり回答します。

### 記

#### 問1について

日本青少年赤十字は、その沿革、目的、性格およびその活動の実情よりみて、青少年の健全育成活動を行う団体であると認められるので、公立義務教育諸学校においても、児童生徒が保護者の同意を得てこれに加盟するよう、教育的配慮のもとに指導することはさしつかえない。

#### 問2について

校長が、学校教育の目的を達成するうえに有効であると判断した場合は、日本青少年赤十字が提供するものを学校教育の教材として利用することはさしつかえない。この場合、学校管理規則の定めるところにしたがって教育委員会の承認を受け、または届出をなすことが必要である。

# 学校での 青少年赤十字の形は様々です。

## 1 全校、全園での参加



児童会・生徒会をそのままJRC活動の中心に位置づける、または、児童会・生徒会の中に委員会のひとつとしてJRC委員会を設ける等の形をとり、全校の児童・生徒が参加します。JRC活動の企画、運営は、生徒会またはJRC委員会のメンバーが中心になります。幼稚園、保育所では、すべての児童が参加し、日常の保育や行事などを通じてJRCに触れてもらいます。

## 2 学年または学級単位での参加

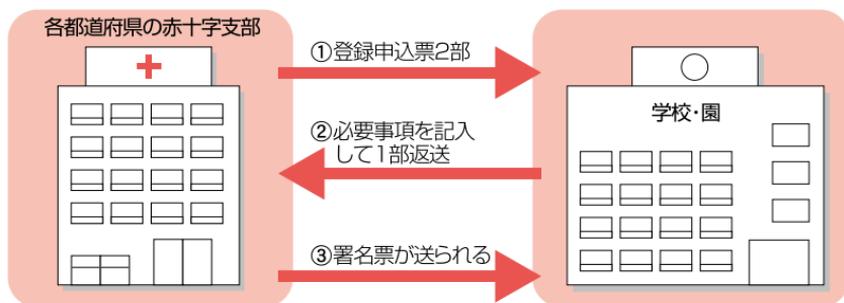
一部の学年あるいは学級単位で参加します。

## 3 クラブ活動としての参加

一般のクラブ活動と同様、希望する生徒によって組織され、クラブ活動としてJRC活動を行います。

上の **2**、**3** の参加形態は、新規に加盟を考える幼稚園、保育所、学校が、全校での参加の準備段階として採用することが多く見られます。

## 登録について



登録とは、学校長（園長）が学校教育のためにJRCを採用することが有効であると判断した場合に、日本赤十字社に採用の旨を通知することです。登録は、毎年学年はじめに更新します。これは、連絡や資料の配付などの事務的な必要と、学年がかわり卒業・入学等の変化、クラス替えや、クラブのメンバー、教員の異動等の理由から行われます。



## 登録式

JRCメンバーとしての意識を高めるために、多くの学校で登録式が行われています。この場合、事前に教員間で赤十字の精神やJRC活動などについて共通理解を図るとともに、児童・生徒にもJRCの意義を理解してもらうことが大切です。登録式を開催する時期は、年度当初に行われることもありますが、5月8日が赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日であり世界赤十字デーとなっていることから、この日に行う例が多く見られます。また新入生（園児）を迎える会などの行事とあわせて行うこともあります。



青少年赤十字に  
参加してみませんか？

詳しくはお近くの各都道府県支部まで

<http://www.jrc.or.jp>

日本赤十字社



**0570-009595**



日本赤十字社